

防府山の会12月例会 由布岳(1584m)登山報告書

2023. 12. 20
記録 N. U

◇日程 令和5年12月17(日)～18(月)

◇費用 15,000円

◇移動 出光セルフ前田産業 (レンタカー: アルファード) TEL 0835-22-4684

◇宿泊 湯布院カントリーロードユースホステル TEL 0977-84-3734

◇参加者 K. M.、T. T.、A. T.(会計)、E. N(L)、N. U(記録)

◇アプローチ

〈行き〉12/17(日) 防府市役所10時3分出発

嘉川(10:36)→(山口宇部道路)→宇部JCT(10:42)→(山陽道)→下関JCT(11:02)

→王子PA(11:10/11:20)→北九州JCT→(東九州道)→今川PA(11:54/12:19)

→日出JCT(13:08)→(大分道)→由布岳スマートIC(13:14)湯布院ユースホステル

〈帰り〉12/18(月)

登山口14:25-湯布院温泉(乙丸温泉)14:40/15:30-道の駅ゆふいん15:38/15:55

-湯布院IC15:57-吉志SA-前田SS給油&乗換19:30-防府市役所19:40

◇コース 12/18(月)

ユースホステル6:00～登山口6:15/6:30…合野越7:20/7:35…マタエ9:03/9:20

…西峰10:00/10:15…剣ノ峰10:46…東登山口分岐11:20…東峰11:45/12:00

…マタエ12:20…合野越13:20…飯盛ヶ城13:43/14:55…登山口14:15

◇持ち物

登攀用具、ヘルメット、水、昼食(行動食)、雨具、スマホ、手袋、帽子、保温水筒、地図
タオル、防寒着、アイゼン又はチェーンアイゼン、冬用登山靴、着替え、宿泊セット他

◇共同装備

消毒用アルコール、救急薬、コッヘルバーナー、ツェルト、30mザイル(A. Tさん)

◇記録

12月17日(日) くもり

午前10時前、防府市役所に男性5名集合、レンタカー「アルファード」に乗り、山陽道→九州東道→大分道と快調に走り、湯布院カントリーロードユースホステル13:23着。16時のチェックインには時間がある事から、明日早朝の登山を考えて由布岳正面登山口の場所を確認、駐車場には多くの車が停まり、丁度某高校山岳部の男女が下山して来た。また、高く聳える冠雪したような由布岳が印象的だった。その後湯布院の町を散策、金鱗湖他何処に行っても海外からの観光客が凄く多く、この日はとても寒かった。16時にチェックイン、19時から同ユースホステル内の食堂で夕食、その後翌日の打ち合わせをし、2部屋に分かれて22時前に就寝。

12月18日(月) 晴れ

当初の予定より1時間出発を遅らせ午前5時起床、簡単な朝食を済ませユースホステルを6時に出発、正面登山口駐車場に着いた時は我々の車のみだった。登山準備を手早く済ませ、ヘルメットにヘッドライトを点けて、緩やかな笹原から樹林帯の登山道を登る事約1時間、左手木の間越しにオレンジ色の太陽が昇り始め、今日の山行の成功を約束してくれているように思えた。さらに数分歩けば合野越(ごうやごえ)。小休憩後つづら折れの登山道に進む、途中何ヶ所も展望が開けていて、由布岳ブルーの空、眼下の湯布院の町や遠く久住連山の山並み、さらに左に目を向けると、祖母山～傾山の長い稜線がクッキリと望めた。ほぼ無風で素晴らしい天気だ、山腹や山頂を埋め尽す程の真っ白な霧氷が眩く輝き奇麗で、一面満開の桜のように見えた。私を含め皆さん写真撮影に夢中になり、なかなか歩が進まない程だった。急登を喘ぎながらも9時過ぎマタエに到着、左手に登ると西峰、右手に登っていくと東峰、この場所はコル(鞍部)になっているから、冷たい風が吹き抜ける。素手でハーネス他の登攀用具を身に付けるのがつらい、私はチェーンスパイクの後部分を装着するのに手間取った。準備を終えていよいよ鎖が掛かっている岩壁を攀じ登る、E. Nリーダー、A. Tさん、T. Tさん、私、しんがりには経験豊富なK. Mさんだ。鎖を持ちたくはないが、手袋(防寒テムレスイ

ンナーなし)をはめているとどうしても鎖に頼ってしまう。さらにその上部の岩壁、障子戸の「カニノヨコバイ」が核心部らしい、高度感はさほどないが、落ちれば命に関わる程の大怪我をするのは間違いない。ここでは以前練習をした、シュリングにカラビナを付け鎖に掛けて登っていった。こうすると安心感が出て普段の力が出せた。真っ白な西峰(標柱は1583.5m)からの展望は抜群、平な山頂広場を独占、行動食や水分を補給しながら360度の大展望を満喫した。休憩後、樹氷を潜り暫く急なザレ場を慎重に下る。お鉢廻りの核心部「ゴジラの背?」では、途中からナイフリッジを通らない登山道が左下であり、よく滑る凍ったロープを伝って数メートル下降した。2009年5月に会のA.Tさんとお鉢周りをした時は、この迂回ルートは無かったと記憶している。山行中誰にも出会わないかと思っただが、数人の男性に出会った。中でもお鉢周りの後半で、後から登って来て初めて来たと言う単独の女性には驚いた。その後東峰山頂まで一緒に歩き、集合写真にも入ってもらったが、大したものだと思う。展望がいい東峰(1580m)からは、さっきまでいた西峰、さらに別府湾、高崎山、鶴見岳(1374.6m)などが望めた。簡単に行動食を食べ水分補給をして下山、10分くらいでマタエに戻ってきた。下山途中に出会ったガイドの男性(後で聞いたが、実はユースホテルのご主人だったそうだが、今日は今シーズン1番の良い条件だと言ってくれたのが凄く嬉しかった。来た道つづら折りを下山、途中から歩を早め合野越着、小休憩及び体温調整後飯盛ヶ城に向かう。一旦下り河原から急登を一気に喘ぎ、僅か15分くらいで飯盛ヶ城山頂(1067m)。だだっ広い山頂からは眼下に由布院盆地が一望出来、後ろを振り向けば、今登ってきた由布岳が山頂部を真っ白にお化粧して堂々と構えていた。

霧氷や樹氷の下を何度も潜り抜けた際に、粉雪が首の後ろに入り冷たかった、ネックウォーマー等首周りの防寒対策が必須、今思えば雨具のフードを被れば良かったと思うが、ヘルメットの上から被れるのだろうか?あくまでも個人的な主観だが、今回の山行で初めて使ったチェンスパイク、凄く扱いやすく確実に岩を噛み安心、今日のような条件下では凄く効果的だった。

下山後「乙丸温泉」に立寄り、やや熱い湯船に体を浸し疲れを取った。入浴料が200円と格安、石鹸やシャンプーは無く、湯と水は別々の蛇口から出てくる昔ながらの温泉だ。

豊後富士とも呼ばれる由布岳が、なぜ日本百名山に選ばれていないのか不思議だが、山全体を覆い尽くす程の霧氷や山頂付近の樹氷に感動し、特に西峰山頂から見た遠く雲海の上に浮かぶ久住連山は一生忘れる事はないだろう。久しぶりの緊張感もあり、心地良い疲れと達成感満足感一杯の山行だった。計画されたE.Nさん始め、往復の運転に神経を使われたK.MさんE.Nさん、同行のT.TさんA.Tさんにも心から感謝。事前の天気予報から1日後へずらしたのが功を奏し、私は初めての冬季由布岳を堪能した、参加して良かった!

◇ジオグラフィカによる歩行ログ

